

# 2018年7月豪雨中国地方の降雨の特徴

田中健路 (広島工業大学 環境学部 地球環境学科)

要点：

1. 台風第7号通過後の梅雨前線の南下と停滞。

(前線の南側の太平洋～南シナ海からの湿潤空気の供給と大陸側からの乾燥空気の継続的な流入)

⇒気象庁報道発表資料と同様の見解(詳細は割愛)

2. 梅雨前線南側近傍で1時間40～70mmの大雨が2度発生。

※近年の1時間100mmを超える猛烈な大雨では、前線から200～300km南側の位置で発生することが多いが、それとは異なる。

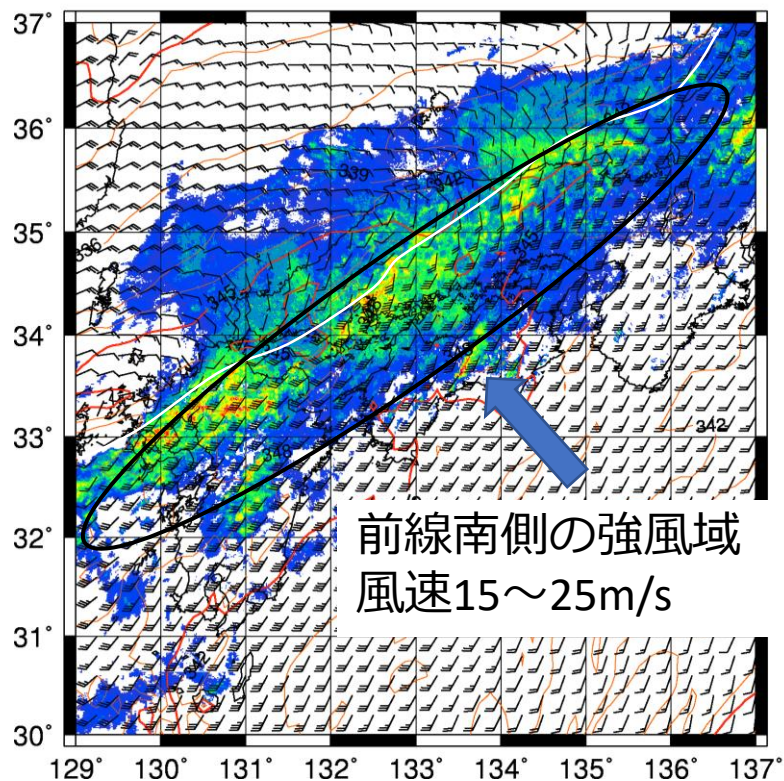
※前線の通過に伴う大雨に関して言えば、1999年6.29豪雨に類似する部分があるが、今回は12時間のうちに2回発生し、時間差をもって広範囲で被害が発生。

3. 前線上の中間規模低気圧の発生に伴う南北方向のゆらぎ

⇒山陽地方で大雨が2度発生する際に重要

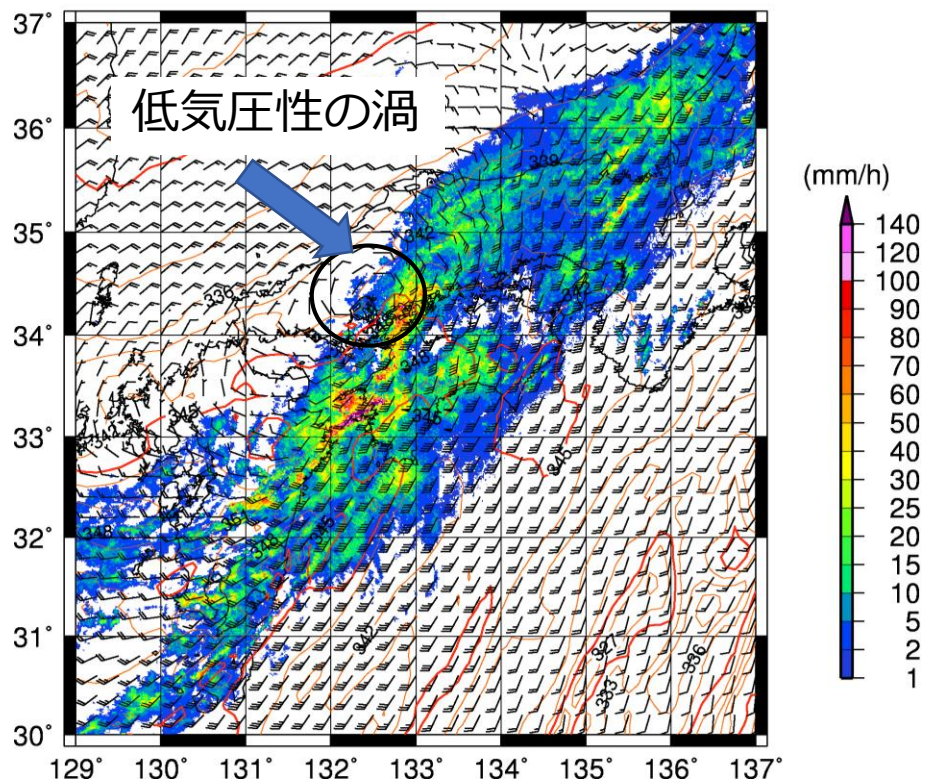
# 上空1500m付近(850hPa等圧面)の風, 相当温位(等値線), およびレーダー降雨強度

2018/7/6 18:00 (日本時間)

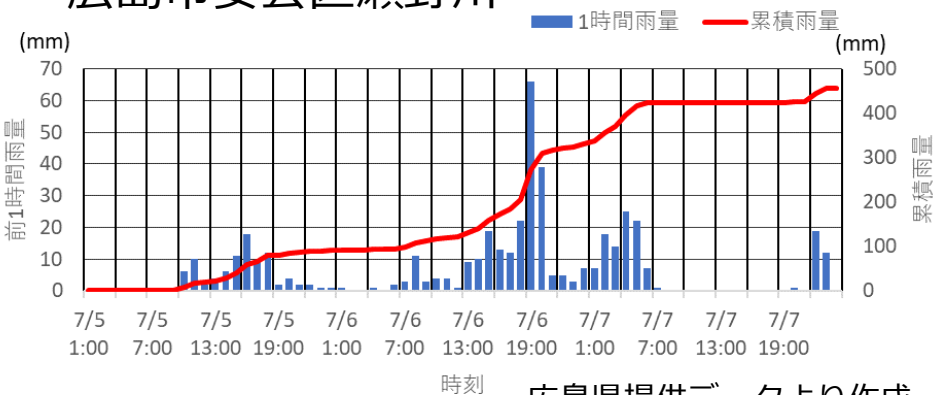


2018/7/7 6:00 (日本時間)

気象庁提供データより作成



## 広島市安芸区瀬野川



## 東広島市黒瀬

